

アジサイ半促成栽培の変温管理が 生育、開花に及ぼす影響

1 研究のねらい

近年、急激な原油価格の高騰が続いており、1月下旬から加温を開始し4月下旬に出荷するアジサイの半促成栽培においても、省エネルギー生産管理が急務となっています。そこで、夜間の変温管理が、アジサイの生育や開花に及ぼす影響を検討しました。

2 研究の成果

2007年と2008年の2年間、下記のとおり試験を行いました。

[供試品種] ‘ミセス・クミコ’ [処理区] 第1表参照

[栽培管理] 挿し芽：前年5月 鉢上げ(4号鉢)：前年6月

鉢替え(6号鉢)：当年1月 鉢替えと同時に加温を開始しました。

鉢用土、元肥、追肥、わい化剤処理及び灌水管管理は慣行としました。

第1表 処理区別の温度管理と加温開始時期、開花日、開花日数、草丈、重油使用量

年	処理区	夜間		日中		加温開始日	開花日	加温後 開花日数	草丈(cm)		期間中 重油使用量
		加温時間	加温温度	加温温度	換気温度				開始時	開花時	
2007	加温18℃区	17:00~07:00	18℃	18℃	23℃	1/25	4/15	80日	4.8	22.6	—
	変温16-12℃区	17:00~22:00	16℃	16℃			4/20	85日	5.8	26.8	—
		22:00~07:00	12℃								
2008	加温16℃区	17:00~07:00	16℃	16℃	23℃	1/23	4/22	90日	13.1	31.7	2,789L
	変温13-11℃区	17:00~22:00	13℃	13℃			5/2	100日	13.0	34.1	1,703L
		22:00~07:00	11℃								

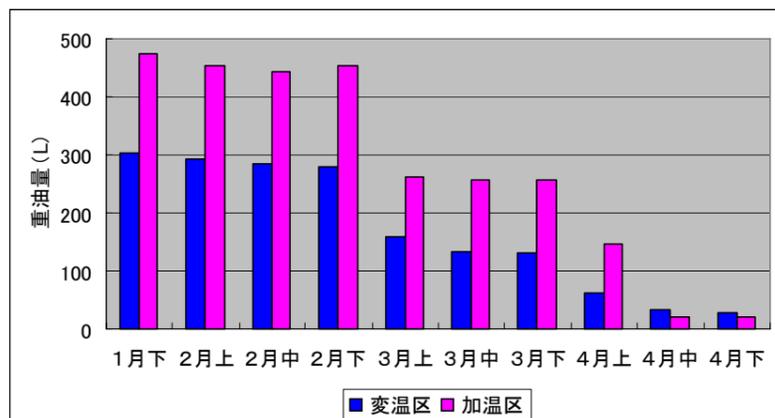
第1表のとおり、開花日はいずれも変温区が遅くなり、2007年は5日、2008年は10日遅れの開花となりました。開花時の草丈はいずれも変温区が高くなりました。花色等その他の品質には、特に差が見られませんでした(第1図)。期間中の加温用重油の使用量は、変温13-11℃区が加温16℃区の61%となりました(第2図)。

以上の結果から、アジサイ半促成栽培における変温管理は加温区に比べ、

- ①開花が5~10日程度遅れる、
- ②草丈が高くなるが、花色等他の品質には影響しない、
- ③加温用重油量を4割程度削減することができることがわかりました。



第1図 開花時(2008年5月2日)の状況



第2図 各処理区別重油使用量(鉄骨ガラス室:166㎡当)

3 成果の活用方法

アジサイ半促成栽培の場合、変温管理で加温温度を下げることにより開花日が遅くなりますので、目標出荷日に合わせた温度設定が必要です。なお、温度を下げることで若干高くなる草丈は、植物成長調整剤で調節が可能です。

(栽培研究部 花きグループ TEL 0853-23-7189)